

# 長岡市図書館協議会会議録

平成21年度 第1号(通巻 第19号)

平成21年7月27日(月曜日)

長岡市立中央図書館

## 議事日程等

- 1 日 時 平成 21 年 7 月 27 日 ( 月曜日 ) 午後 2 時から午後 4 時まで
- 2 場 所 長岡市立中央図書館 2 階 講座室 1
- 3 出席委員 7 名  
渡邊誠介委員長、恩田里土委員、熊倉恵子委員、清田知之委員、  
田邊 幹委員、谷 紀子委員、松本和明委員
- 4 欠席委員 3 名  
淵本紀子副委員長、桐生久美子委員、古塩 実委員
- 5 出席した事務局職員 6 名  
中央図書館長 小野田 信 子  
中央図書館長補佐 小 倉 進  
中央図書館総括副主幹 廣 田 恭 子  
中央図書館庶務係長 高 橋 愛 子  
中央図書館奉仕係長 松 矢 美 子  
文書資料室長 金 垣 孝 二
- 6 出席した指定管理者職員 2 名  
株式会社 図書館流通センター 業務統括責任者 荒 井 清  
株式会社 図書館流通センター 業務統括チーフ 高 橋 理 恵

- 1 開会
- 2 小野田中央図書館長あいさつ
- 3 渡邊委員長あいさつ
- 4 議事（議長 渡邊委員長）

(1) 報告事項 平成20年度実績報告及び21年度事業概要について

奉仕活動のあらまし及び利用状況等	松矢奉仕係長	説明
施設維持管理業務	高橋庶務係長	説明
文書資料室の業務	金垣文書資料室長	説明

（～ 「平成21年度 図書館の概要」に基づき説明）

地域図書館の状況について

指定管理者：(株)図書館流通センター 荒井業務統括責任者説明

（**報告事項** P1「20年度活動状況及び21年度計画概要」に基づき説明）

〔質問等〕

委員：指定管理者施設である地域図書館の活動について伺いたい。

ハード面及びサービス面での努力は認めるところであるが、ソフト面における各館独自の具体的な取組がよく見えない。特に、新規事業である郷土の歴史アーカイブス事業は、重要で意義深いものであるが、短期的に、そして中長期的に、具体的にどういう方向を目指すのか。

自主的な独自事業を、個々の館単独で企画を立てて行うことは難しい。現在活動をしている市民団体とか地域のグループは、活動成果のアピールや活動を披露する場所を探しているが、なかなか見つからない状況にある。そういった団体やグループの成果や知見を活用すべきかと思うがどうか。

指定管理者（業務統括責任者）：

郷土の歴史アーカイブス事業は検討中であり、現段階では説明できにくい状況にある。

地域に根ざした活動、地域から愛される活動及び利用の促進を目指しており、御指摘のような地域における市民グループの発表機会の場についても、その必要性を十分に理解している。実際に、私どもは、ミニコンサー

ト的なものを各地域で何回か開催させていただいている。今後さらに、地域との触れ合いや発表の場の提供に向け、努力をさせていただきたいと思っている。

委員：例えば、東山油田保存会では、東山の石油産業から長岡の機械工業が生まれ発展をもたらしたことについて、保存・継承を行っている。3年ほど活動を行っているが、新市域の住民に認識が広がっていない。そこで、東山油田の意義をアピールするために、各地域に出向いて、講演会等を開催し理解を深めたいと考えている。新市域の図書館はいい場所にあるが、活動をやりたくても手を挙げにくいところがあると思う。地域内にとどまらず、他の地域で何か活動をしてその地域の人にアピールをしたいという気持ちは、東山油田保存会に限らず他団体にもある。提案があれば受け入れていただく余地がどの程度あるのかと思い、質問をしたところである。

委員：地域図書館が地域に根ざすことについて、活動事例や地域の来館者との意見交換があれば聞かせてほしい。

指定管理者（業務統括責任者）：具体的には、出張「おはなし会」として、保育園や幼稚園に出向き、読み聞かせ活動を行っており、徐々に広がりつつある。また、小・中学校を訪れ、地域図書館がどこにあるのか知られていない実態があるので、PR活動を積極的に実施していきたい。

(2) 協議事項 「長岡市立図書館の活動評価」の実施について(案)  
資料に基づき、小野田中央図書館長説明。

〔質問・意見〕

委員：「1 年次推移による数値評価」の(ア)管理運営費の評価(AA・A・B・C)であるが、経費は議会で議決されているものであり、この場で2次評価をするということは果たしてどうなのか。むしろ、数字を単純に入れて、図書館全体の予算がシーリングで何%減ということであれば、備考欄にそのように記載し、あとのAA・A・B・Cは読む人に任すことにしたらどうか。評価を付けられないところは単純に斜線で良い。その代表的ものが、管理運営費の部分かと思う。ただ、一部の資料費や事業費を施設の管理経費に回さなければならない状況、例えば大幅な改修がある場合については、備考欄に出入りのあった説明が必要である。

中央図書館長：確かに不自然なところもあるので、その箇所は斜線で良いかと思う。

委員長：P3 と P6 で同じように、AA・A・B・C としているが、客観的に増減のあるものと成果をあげたと評するものとは少し違いがあり、同様にしないほうが良い。

委員：協議資料 P4 「2 事項別活動評価（評価表2の総括表）」には、いわゆる業務評価と来館者評価が混在している。業務評価は職員の努力により改善できるもので、それを来館者がどのように受け取るかというものが来館者評価である。業務評価で頑張った結果がすぐに来館者評価に表れるわけではなく、その間に、PR する時期とか社会の状況とかにあやかれるので、一つに並べると表自体はプラスになるが評価全体はわかりにくくなる。

例えば、「12 使いやすい施設づくり」における、「(1) 使いやすい館内配置」とは、使いやすくなるであろうと推測して業務をし、それでどうなったかという評価である。「(2) 快適な環境づくり」は、それによって実際に快適で使いやすくなったかどうかは、来館者による評価となる。

「11 市民参加の運営」の「(2) 利用者の声の反映」は、正に来館者評価である。来館者評価を把握するためには、アンケートを取る等いろいろなことをしなければならぬため業務量は増加すると思う。

ともかく、この評価項目は業務評価、この評価項目は来館者評価というように、評価するときにはしっかり分けて考えないと、逆に来館者評価のときに評価ができなくなってしまう。

中央図書館長：来館者評価と事業評価というふうに分けているつもりではなくて、私どもは事業評価と考えている。利用者の声の反映や快適な環境づくりは、来館者評価という意味ではなくて、図書館としての取組みというつもりである。

委員：業務評価と読めばそのように読めるので、それであればよい。

委員：P6 の（評価表2）「2 事項別活動評価【記入例】」には、成果と課題だけでなく、改善案も含まれる。「成果と課題」があれば、その先どうするかというものを書かなければ評価表としては不十分である。現状と改善案に分けるか、そう思ってこの部分を書かなければならないが、記入例は混在している。

中央図書館長：改善案は確かにそこまでしなければならないが、予算を伴うものがある。

委員：確かに予算を伴うものは多いと思う。それは素直に書いてもらえば良いので、考えはあるがどうしてもできないものは、意思表示をはっきり明記する必要がある。

委員長：それは、第3者が記入するのか、私たち委員が記入するのか、その判断が難しい。

委員：図書館の成果評価とは違うが、私どもは社員に対する成果の評価を実施している。その中で、今後の対策を書かなければならないのかということについては、私どもの（会社の）評価はそこまで必要としていない。自分が立てた目標について、どれだけ達成できたかどうかを数字的なもので裏付けて評価をする。だから次にこうしなければならないということは、評価の中にこれしかできなかった、ここができなかったということが書いてあれば、次にどうしなければならないかは当然透けて見えるわけであり、私は必要ないと思う。

委員：透けて見えるから不要ということであるが、行政で出すものである以上、見ることのできる状態にすべきかと私は思う。

中央図書館長：改善策については、内部文書であればきちんと書けばよろしいかと思うが、公表しようと考えているので、改善策まで書くことで、予算の裏付のない状態での公表は、危険が大きいという感じがする。明らかにできるものであればいくらかでも書いて良いと思うが、こうあってほしいというような希望のレベルで書いてしまうと、それが流布することによる危険性が大きい。できれば、課題という形で残して、翌年また目標を立てるときに、課題を持って改善策を載せていけば良いと思っている。

委員：正直に書いたらどうなのか。自分（図書館）を守ることができるように。設置責任者として、予算的にできないものはできない、と書いたほうが私は良いと考える。

委員：はっきり出すことによって、どうしてという怒りの批判が出るのではないか。

委員：やる以上は説明責任も含めて、徹底してやるべきかと思う。そうしなければ何のための評価か、評価を出すための評価というだけで、次に生かすこともできない。腰砕けではなくて、踏み込み過ぎだという評価があるくらいにまですべきでないか。

委員：例えば資料の充実という項目があるが、充実度が少ないと評価した場合、どこまでが正しいのか、どこまでしなければいけないのか。踏み込んで書くということは、イメージとして充実度が少ないということがわかったとしても、どうすればよいのかということは私にはできない。そこまで踏み込む必要が果たしてあるのかという気がする。

委員長：意見が分かれているが、ここは議決の場でないので、改善案については、館内見学後の意見交換の場まで、私に一時預けていただくことで、よろしいか。

全委員：承認

委員：「8 障害者サービスの充実」の中の「(1) ユニバーサル資料充実と活用」について、わかりやすい表現にしていただけないか。また、「3 IT 活用による利便性向上」の「(2) 各種外部データベース等電子資料の提供」についても、日本語で表記していただきたい。

### (3) 図書館内見学

2階電算室における選書の場面 3階書庫(貴重資料庫含む) 1階書庫 館外奉仕室(米百俵号2台の見学含む)

### (4) 意見交換

〔質問・意見〕

委員長：皆さんの見学後の感想・意見を求めたい。私自身の感想は、3階の書庫がいっぱい場所がなく、これから資料が増えたらどうするのかと感じたところである。

委員：資料費を削減されているようであるが、なぜなのか。かつて多いときは9千万円と聞いていたが、先ほどの話では6千万円という。不用になっ

た資料を市民に提供するエコ・ブックスフェアには、かつて1万冊出されていたが、近年は少なくなった。選書も新しい本が減っている感じがする。最近地域図書館でも、新しい本が少なくなったという気がする。

委員：普段私たちが出入りしている場所以外の書庫に、多くの資料があることを知り、心強さを感じた。今後も本が増えていくので、どのように管理されていくのか心配な気がした。

委員：書庫が手狭な感じがした。私見であるが、蔵書も利用者も多ければ良いとは思っていない。限られた予算の中で、私たちが高くて手が出ない資料に特化するとか、地域の貴重な資料を特化して収集したらどうかと思った。あれだけの資料があれば、例えば、日を決めて図書館探検を実施するとか、子どもについても定期的に案内して、図書館を知ってもらうようにすれば読者が増える。

委員：書庫が満杯であることは課題である。一般的に利用の少ない資料が増えていくことにつながる。今後どうするのか。貴重書については、説明責任が必要である。美術センターに貴重書を出しやすい形にして、人が張り付かなくても出せるように整備してほしい。2週間ぐらいのテーマ展をやるとか、美術センターの6分の1とか8分の1のところ展示ケースを置いて、期間展示をやったらどうか。このように美術センターの展示方法にも手を入れてほしい。

委員：すごい数の蔵書数に驚いた。普段は気に入ったものしか読んでいないので、館内探検があると面白い。

委員：大学図書館では蔵書の公開が増えている。そこには掘り出し物がある。書庫の公開を部分的にでも行うことは良いことであるが、自動書架の場合はさまれる等危険性も伴う。そのあたりどう安全性を担保していくのか。選書において、確かに予算縮減の傾向はわかる。ただ、公共の図書館は無料貸本屋であってはならない。選択と集中というか巷に出ている安い図書ではなくて、長い目で市民にとって必要な資料を選んでほしい。これについては、選書担当者の日ごろの鍛錬及び書に触れ合う場面が必要である。新聞は貴重である。ただ、収集・保存と公開のバランスをどう取るのか。保存は必要であるので、場所は取るが、公開にはマイクロフィルムを利用するようにして分けていけば良い。中央図書館の場合3階の書庫にあれだ

けのものがあるということは財産である。

委員長：先ほどの協議事項の活動評価について、再度取り上げたい。

**報告事項** P3「長岡市立図書館の活動評価」の(イ)利用状況の項目中「入館者数(中央図書館)」において、入館者数が多ければ良いという前提で、目標に達しなかった場合はどう説明をするのかという指摘があった。

その前頁のP2 評価の目的(社会情勢やニーズに的確に対応した図書館のあり方になっているかどうか)については、あまり議論していないために、テクニク的にこういうふうにやれば良いというようになっている気がする。

したがって、先ほどの議論にあった改善案を明記すべきかどうかは、論理的に考えればそのほうがいいかもしれないが、図書館としてどう考えるか、というところが委員の立場かと思うので、皆さんのほうで御意見があれば、申し上げていただきたい。

委員：入館者数と貸出数について、図書館としてどういう立場を取るべきか。

数値を上げるためには流行の本を多くそろえれば良いが、ブームがすたれたときに保存に困る。逆に購入を控えると、若い人は図書館に行かなくなり数値は下がると思う。

委員長：図書館には福祉的な立場もあるので、バランスが難しい。

委員：未来の市民のニーズを先取りすることが必要。どうやっていけばよいのかというのは難しい。選書会議をしっかりとって、勉強することであり、あとは全体的なバランスをどうやって取るかである。

委員長：図書館資料としてさほど価値のないものは削って、うまく活用することである。取捨選択とマネージメントの努力の余地があるかどうかである。だんだん貴重な資料の比率が上がっていくというのが、これからの図書館の趨勢かもしれない。

委員：小・中学校の統廃合により廃校になったところに、保存用の資料を一時的に置いて、数年間利用がなければ廃棄にするという方法もある。現在図書館は、廃棄か保存かの二者択一的な厳しい選択をされている気がする。その間に、ちょっとばかり利用者の様子に任せてみる期間があると、だいぶやりやすいのかなあという気がする。

委員：個人貸出数のジャンル別の内訳を知りたい。

中央図書館長：「平成 21 年度 図書館の概要」の P21～P22 に内訳が記載されている。

委員：予約件数に抵抗がある。例えば NHK も大河ドラマ「天地人」が始まるとドラマを扱った小説の貸出が増える。例えば 100 冊の蔵書があれば、100 人の利用者が借りることができるので、予約はないと思う。ところが 5 冊しかないで 95 人が予約をする。それが終わって別の小説が始まれば、それによって予約数が増えたり減ったりするのではないか。果たして、図書館活動評価に入れていいのかどうか単純な疑問を感じる。

委員：予約件数は増えたほうが良いのか、減ったほうが良いのかがわからないので、この中に入れることは危険であると思う。ただ、予約があれば、それだけ人気のある本を適正に選んでいるという評価にもできる。

中央図書館長：正直言って、評価をしようとすることは大変なことであると思う。図書館の長期計画がない中で、目標値も定められないので、当面の年間の推移状況を見ながら、今年度やれそうなものを目標にとにかく作って、できたかどうかをやるというやり方もある。がん張って高い目標値を作れば、実質の評価はぐっと下がる。逆に達成可能な目標値を作れば、簡単にすべて AA になる。目標値を定めることはなかなか難しい。

実際、図書館の貸出数が増えれば良いのか、選択と集中でもっと図書館の役割を特化するのがよいのか、その考えも公立図書館ということで特化しにくいところがある。バランスよくいろいろ含めた中で、図書館サービスをやりたいということが今の状況である。

そういう曖昧模糊としている状況の中で、評価をしていこうとしているので、評価表がすっきりしない。

委員：それは仕方ない。図書館の評価は初めて行うのであり、これはおかしい、改めたほうが良いというものはいっぱい出てくる。したがって、走りながら考えていくことになる。まして、会議は本日しかないわけで、すべて完全なものにまとめることは難しい。まずやって、その上で、どこが悪いのか、やめたほうが良い、つけ加えたほうが良いものを、徐々に直していけば良い。

委員長：それでは、本日皆さんからいただいた御意見を尊重しながら、事務局と私のほうで若干これを修正させていただくこととしたい。本日の議論は、皆さんなるべく忘れないようお願いをしたい。もちろん、ネットには本日の議事録が掲載されるということであり、そこを見ていただきながら、次回の2月のときに、話を進めていくこととしたい。

## 5 閉会